

平成25年度全国麦作共励会における九州農政局管内からの受賞者の紹介

【農家の部】

全国農業協同組合中央会長賞 うちだ たけし **内田 武士 氏（佐賀県佐賀市東与賀町）**

○ 農家の経営概況

佐賀市東与賀町の水田地帯で水稻、麦、施設園芸（いちご）の複合経営を行う専業農家であり、採種事業にも積極的に取り組むなど、地域の中核農家及びリーダーとして活躍しています。

○ 麦の作付概況

平成24年産の麦の作付面積は1,341a（小麦281a、二条大麦1,060a）で、大型機械力を駆使した大規模経営に取り組みながらも基本技術を忠実に励行し、収量水準の高位安定化を実践しています。

○ 技術面の特色

麦作ほ場の全面積に本暗渠、弾丸暗渠、簡易明渠等を施工するなど排水対策の徹底を図っています。特に、ほ場に対し斜めに1m間隔で暗きょを施工することで、排水性をより良くしているところに特徴があります。

土づくりについても、石灰やミネラルGなどの土壌改良剤の施用並びに継続的なわらのすき込みをするなど積極的に取り組んでいます。また、管理作業に当たっては、適切な時期に踏圧を4回、土入れを3回行うなど中間管理を十分に行うことで、生育のコントロールに努めています。

○ 収量・品質の改善

土壌条件に応じた良質品種の作付け、種子全量更新、病虫害の適期防除、施肥播種機の利用による発芽の整一化などに細心の気配りをして、収量の高位安定化と上位等級麦の出荷に努めています。

これらの取組の結果、25年産の10a当たりの収量は、大麦のニシノホシ501kg（県平均252kg）、サチホゴールデン442kg（県平均252kg）、小麦のチクゴイズミ678kg（県平均297kg）といずれも県平均を大幅に上回っています。

○ 労働時間・コストの削減

土地利用、作業の集積と併せて大型機械による一貫作業を行うことにより、作業の省力化を図っています。また、畦畔削減に積極的に取り組むとともに、赤かび病の防除作業等に乗用管理機を活用することで労働時間を軽減しています。

さらに、機械の保守点検を励行することで、機械の長期間使用に努めるとともに、肥沃になる大豆跡のほ場には省力化とコスト削減を兼ねて減肥を実践しています。

○ 今後の取組について

現在の麦作付面積13haから26年産で15haに拡大する計画としています。今後も二条大麦と小麦の作付け体系を基本として、排水対策と土づくりをベースに、基本技術の励行による収量及び品質の向上、大型機械一貫作業による省力化等の工夫を図りつつ、土地利用型作物と施設園芸を組み合わせた大規模経営を行っていくこととしています。